



アフリカ・サブサハラ地域におけるジェンダー正義と宗教

女性器切除（FGM）をめぐって

Professor Rogaia Mustafa Abusharaf
Gender Justice and Religion in Sub-Saharan Africa
The Case of Female Genital Mutilation

講演者：ロガイア・ムスタファ・アブーシャラフ

ジョージタウン大学（カタール・キャンパス）・人類学教授

調査地：スーダン、オマーン、ザンジバル、合衆国、英国など。研究テーマ：移民、人権、ジェンダーなど。
(Professor of anthropology at Georgetown University's School of Foreign Service in Qatar. Fields: Sudan, Oman Sultanate and Zanzibar, the United States, and the United Kingdom. Topics: migration, human rights, gender, diversity and inclusion, social justice and ethnology in Africa, and the Indian Ocean diasporas)

コメンテーター

中村香子（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）

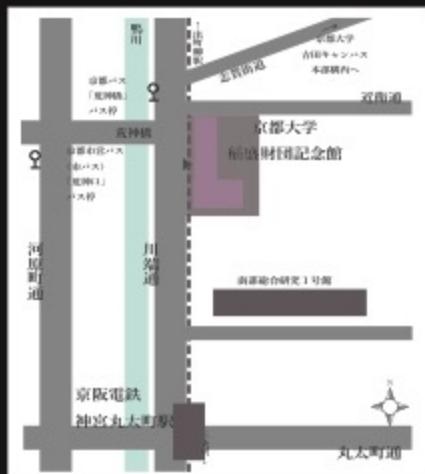
ケニアの牧畜民サンブルを対象に「女子割礼／女性性器切除」に対する廃絶運動と、それに対する人びとの反応について調査・研究中。論文「スルメレイが手にした選択肢－ケニア・サンブル女性のライフコースの変容」『アフリカの女性とリプロダクション』所収、晃洋書房、2016年、など。

宮脇幸生（大阪府立大学人間社会システム科学研究科）

国家支配に対する周辺社会の抵抗、開発とエチオピア社会の変容、家父長制社会におけるジェンダー秩序と女性のエンパワーメントに関心をもっている。論文「女性性器切除と廃絶運動」『現代エチオピアの女性たち－社会変化とジェンダーをめぐる民族誌』所収、明石書店、2017年、など。

司会 田中雅一（京都大学人文科学研究所）

使用言語：英語



日時：11月8日（水曜日）18:30-20:00

会場：京都大学稻盛財団記念館 3F 318号室

問い合わせ：田中雅一 shakti@zinbun.kyoto-u.ac.jp

主催 京都大学人文科学研究所共同研究班「ウメサオ・スタディーズの射程」

共催 人間文化研究機構基幹研究プロジェクト『現代中東地域研究』上智大学拠点

FGM/C 研究会「<女子割礼／女性性器切除>の民族誌的研究

多様な選択肢とアフリカ女性の社会的地位」

